

## カレニアミキモトイ情報 R6-1号 第9報

## 赤潮注意報 (伊万里湾)

伊万里湾 第9報

令和6年7月16日

佐賀県玄海水産振興センター

カレニア ミキモトイおよびシャットネラ属が  
確認されています。

7月16日の伊万里湾での調査の結果、有害種であるカレニア ミキモトイが確認され、最高細胞密度は 伊万里港入口 (5m) の 18細胞数/mLで、巻貝に対して注意報レベルです。

また、有害種であるシャットネラ属も確認され、最高細胞密度は 福島南 (0m) の 4細胞数/mLです。

カレニア ミキモトイおよびシャットネラ属は魚介類に被害を与えます。今後の天候・海況によっては、さらに増殖する可能性もあります。養殖業者等におかれましては、海水の着色や養殖魚介類の状況に注意し、以下の対策を検討してください。

<input type="checkbox"/> <b>貝類</b> 養殖・蓄養	巻貝 (アワビ,サザエ等)	注意	・移動の準備と実行 ・早期出荷
着色域は風や潮流により移動します。 養殖魚介類の状況には十分ご注意ください。			

## 【留意点】

- ・カレニア ミキモトイおよびシャットネラ属は魚介類のへい死を引き起こす非常に有害なプランクトンです。
- ・カレニア ミキモトイおよびシャットネラ属は海面が着色していなくても、中底層に赤潮を形成していることがあります。カレニア ミキモトイは特に、アワビ、サザエ等の巻貝に強い毒性を持つことから、巻貝では海面が着色する前にへい死する可能性があります。

次回の調査は 7月22日 (月) に予定しています。

(ただし、海況の変化によっては臨時調査を行う予定です。)

【カレニア ミキモトイ(*Karenia mikimotoi*)の特徴】

- ・赤潮時期：5月～9月 (まれに冬季に発生)
- ・出現水温・塩分：9～31℃、16～36%
- ・被害密度：約1,000 細胞数/mL以上  
※特にアワビ、サザエは数10 細胞数/mL以上
- ・被害対象 魚類：マダイ、トラフグ、ハマチなど  
貝類：アワビ、サザエ、アコヤガイなど

【シャットネラ属 (*Chattonella* spp) の特徴】

- ・赤潮時期：6月～9月
- ・出現水温・塩分：20～34℃、18～34%
- ・赤潮の色：褐色～赤褐色
- ・被害密度：約100 細胞数/mL以上
- ・被害対象 魚類：マダイ、トラフグ、ハマチなど  
貝類：アワビ、サザエ、アコヤガイなど

■ 次のページに、調査地点ごとの細胞密度を示しています。

## カレニアミキモトイ情報 R6-1号 第9報

## 赤潮注意報

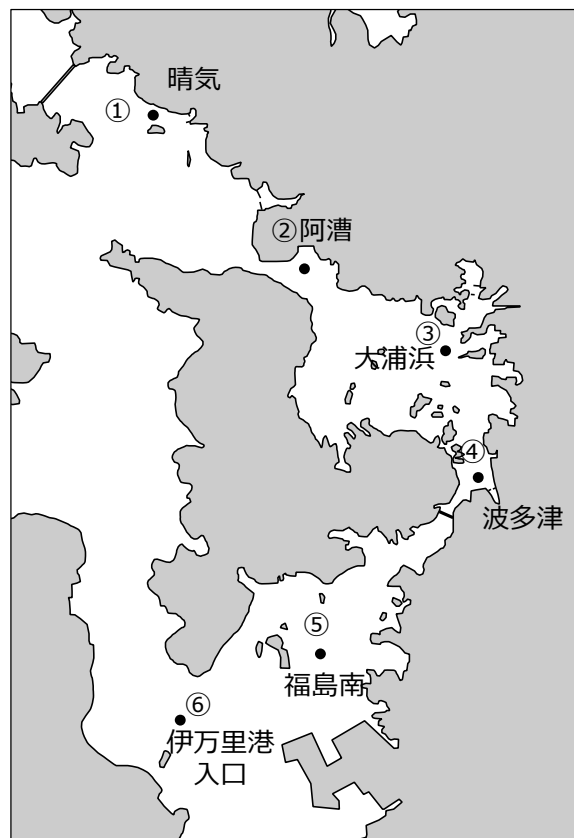
(伊万里湾)

調査年月日：令和6年7月16日

採水時間：9時50分～11時05分

地点名	採水層 (m)	カレニア ミキモトイ (細胞/ml)	シャットネラ 属 (細胞/ml)	珪藻類 (細胞/ml)
① 晴気 (水深18.8m)	0	2	2	86
	5	0	0	134
	10	0	0	200
	B-1	0	0	32
② 阿漕 (水深18.2m)	0	0	0	156
	5	0	0	220
	10	0	0	400
	B-1	0	0	80
③ 大浦浜 (水深11.0m)	0	0	0	600
	5	2	0	810
	B-1	0	0	1,520
④ 波多津 (水深6.9m)	0	4	0	760
	5	0	0	2,060
	B-1	0	0	560
⑤ 福島南 (水深10.6m)	0	2	4	8,000
	5	2	0	620
	B-1	0	0	250
⑥ 伊万里港 入口 (水深12.5m)	0	2	0	148
	5	18	0	260
	10	0	0	210
	B-1	4	0	120

調査地点図



カレニアミキモトイの注意・警戒密度の目安

【対象：巻貝】

注意基準：10 細胞数/mL

警戒基準：50 細胞数/mL

【対象：魚類・二枚貝】

注意基準：100 細胞数/mL

警戒基準：1,000 細胞数/mL



カレニア ミキモトイ

シャットネラ属の注意・警戒密度の目安

【対象：魚類・二枚貝】

注意基準：10 細胞数/mL

警戒基準：100 細胞数/mL



シャットネラ属